

中ノ岐林道から

ひらがたけ
平ヶ岳

山口佳延

宿をとった清四郎小屋の車で1時間半、中ノ岐林道の平ヶ岳登山口で車を降り、南の源流方向を見上げた。平ヶ岳の稜線が緩やかな弧を描いている。歩き始めてすぐに岩が転がった沢に出た。河床の岩に架け渡した板で平ヶ岳沢右岸に渡った。樹林帯に切り開かれた急登の道で、足元にはササが繁っている。左右には、根を道に張り出したダケカンバなどの巨木がカエデやナナカマド等の灌木を従え、天を衝く。歩き始めて1時間、木の根がほど良

くうねっているところで振り返った。後続隊の幾つもの頭が左右に揺れていた。道の山側に腰を降ろし休憩。北方遙か、紫色にけむる荒沢岳の稜線に眼をやった。

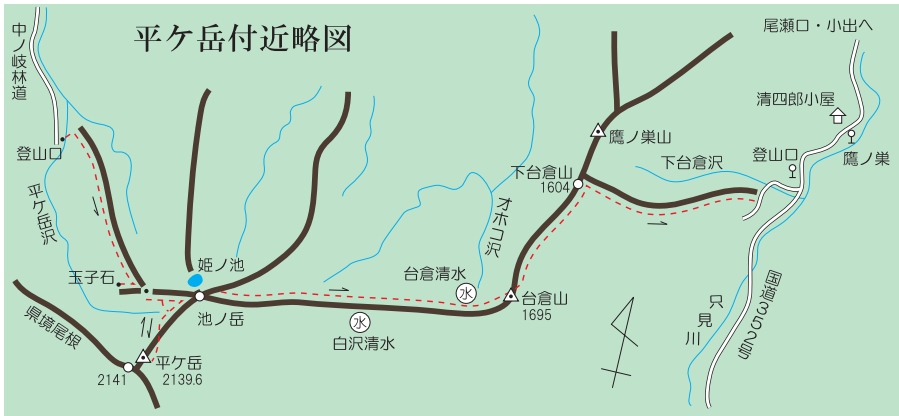
樹林帯に切られた道は深く抉られて赤土が剥き出しになり滑りやすい。U字型に抉られた底ではなく肩を進む。顔を上げれば、木々の梢の間から劔方倉山が顔を出す。左の緑海の中、オオシラビソの幹が白く浮き出て、木の輪郭を現す。休んだところでは、木の根が張り出し心地よい風が通り抜ける。樹林帯の様相が変化し、コメツガやハイマツの林が左右に広がる。

行く手が大きく開けてきた。緑色に染まった平原が緩やかな弧を描き、光を浴びてキラキラと輝いていた。木道を20ほど進むと分岐で、右の玉子石方面に折れた。キンコウカのオレンジの花びらが草原を



平ヶ岳から会津駒を望む

渡る風に揺れ、緑色の絨毯に溶け込む。木道の脇には、頂に綿毛を付けた数本のワタスゲが寄り添い、丘を撫でる風



にゆらゆらと忘れたように揺れている。木道の反対側に立ち上がるオオシラビソやシヤクナゲなどが木道に影を落とし、戯れている。ほどなく玉子石が見えた。木道から一段低くなった平原の片隅に玉子型の石が立っている。あたりには様々な大きさの池塘が点在し、水面に青空を映す。大地に戯れる妖精のようでもある。池塘群の外縁にはオオシラビソだろうか低木の樹林帯が走る。沢を挟んだ向こうに平ヶ岳のなだらかな稜線がU字型に弧を描き、劔が倉山に続く。遙かに上州の山々が連なり薄紫色にけむっている。

緩やかな起伏の湿原に敷かれた木道を行き、右平ヶ岳の道標が立つところに出た。直進すれば池ノ岳方面だが、右に折れ平ヶ岳方面に進路をとる。わずかに切り開かれたところから細い水脈が顔を出す。このあたりは平ヶ岳沢の源流域である。

水場から数歩進んだ木道際に、ミヤマリンドウだろうか薄いブルーの花びらが顔を覗かせ、沢を渡る風に揺れて

いた。少し奥に、ニッコウキスゲがオレンジ色の花弁を天に向けていた。

ツガ廊下と呼ばれるコメツガやシラビソの低木樹林帯を抜け、再び開けた湿原に出る。左の方に傾斜した湿原が現れて、ほどなく二等三角点分岐に着いた。コメツガやササで囲まれた林の中に「平ヶ岳二二四一」と記された道標が立つ。道標を過ぎ、木道に視線を落として歩く。見上げると、尾瀬近辺の山々が薄紫色に霞む。右にはコメツガなどの低木樹林帯が続き、ところどころ、シヤクナゲが木道に枝を伸ばす。

中ノ岐林道登山口を出て4時間、木道の終端に立った。南東に向けた視線の先には、2つの峰を頂いた燧ヶ岳から大きなU字型をした滑らかな山端が遙か右の至仏山に向かって流れている。それらは対をなしている印象を受ける。山端の向こうには尾瀬湿原が拡がっているのだろう。さらに奥にも幾つかの稜線が薄紫色の山端を描いている。

昼食後、北に眼を向けた。木道に連続して湿原が広がる、というより池塘



玉子石

と池塘の間に緑色に染まった湿原が点在する、と表現した方が適切かもしれない。「あれが中ノ岳、少し右が越後駒ヶ岳、その右が荒沢岳じゃないかな」。山友が指差した方向には、山壁に雪渓を抱いた越後の山々が無骨ではあるが雄大な山姿を見せる。

山頂から35分、姫ノ池の前には木道が敷かれ、登山者で賑わっている。平ヶ岳を背景にした舞台のようなようだ。

来た道に戻り、鷹ノ巣への分岐へ進

んだ。コメツガ林を抜ける道には、ササの葉が差し掛かる。視線を上げれば会津駒ヶ岳の雄大な山姿、右に転ずれば燧ヶ岳から至仏山へと流れる稜線が霞んでいる。

しばらくして、樹林帯に入った。木道の右に白沢清水の水場が現れた。ドローンとした流れで油が浮いているような状態だ。ここ白沢清水にはコンコンと冷たい水が湧きでている筈であったが、水量が足りないのである。

アップダウンのある樹林帯の中を歩くこと1時間、森の中の水場の台倉清水に着いた。木道から下がったところでテントが張れそうな平坦部があるが、ここは幕営禁止。そこから数分下りたところに、水場はあった。白沢清水とは異なり、水量豊富だ。2ツルの魔法瓶に水を満たした。

ここから下台倉山までは、起伏の少ないゆったりとした散策路だ。左手には樹林帯が続き、右は大白沢に向かって落ち込んでいる。道の傍にはミヤマママコナの薄紅色をした花びらが沢を

渡る風に揺れている。西北遙か、越後駒ヶ岳の山塊が青鼠色にシルエットを描く。

高原を散策している気分が浸っているうちに、下台倉山の道標が見えた。

道は右方に折れ、東を目指す。小休止後、一気に鷹ノ巣へ。眼下は山また山濃い緑に包まれる。小石交じりの急斜面にはトラロープが渡してある。道の脇に、オオシラビソの枯木が白く乾いた木肌を見せている。白茶けた岩道は尾根伝いに緩いカーブを描き、徐々に高度を下げる。

両側が切り立った狭い尾根道は滑りそうに見えるが天候は快晴、登山靴はしっかりと岩に食らいつく。樹林帯の中、下台倉沢の対岸に渡れば鷹ノ巣登山口は眼の前だ。

(07年8月13日歩く)

●参考タイム

東京⇨浦佐⇨バス30分⇨大湯温泉14・15⇨バス⇨奥只見ダム15・05⇨25⇨定期船40分⇨尾瀬口16・05⇨10⇨予約バス⇨鷹ノ巣・清四郎小屋16・15(泊)⇨4・10⇨車1時



清四郎小屋

●費用
東京⇨浦佐 JR・新幹線とも

⇨浅草
1時間35分⇨会津高原尾瀬口駅12・15⇨50
8・45⇨バス⇨御池9・20⇨10・40⇨バス
ノ巢登山口・16・45⇨清四郎小屋(泊)⇨
台倉前近く14・20⇨30⇨休15・20⇨30⇨鷹
清水12・05⇨15⇨台倉清水13・00⇨10⇨下
40⇨10・15⇨姫ノ池10・50⇨11・00⇨白沢
間25分⇨中ノ岐林道登山口5・35⇨休6・
40⇨7・05⇨玉子石8・20⇨30⇨平ヶ岳9・

浦佐駅⇨奥只見ダム 7970円
バス 900円
運行 6月1日⇨10月21日

船着場⇨尾瀬口 船 1150円
運行 6月1日⇨10月10日

尾瀬口⇨鷹ノ巣 バス 320円
6月1日⇨10月10日運行 要予約

清四郎小屋⇨御池 バス 940円 要予約

御池⇨会津高原尾瀬口駅 バス 2040円

会津高原尾瀬口⇨浅草 東武ほか 2540円

●問い合わせ先
南越後観光バス 025-792-8114

会津乗合自動車 0242-22-5555

会津バス田島営業所 0241-62-0134

清四郎小屋 090-2558-0028

●地図
平ヶ岳(2万5千)
日光(20万)

「越後三山」昭文社

新ハイキング選書 第27巻

房総のやまあるき

— あなたの知らない房総の山 58コース —

A5判・261頁
定価1838円(税込)

内田 栄一 著

「えっ！千葉に山があるんですか？」
そんなあなたに、とっておきの房総のやまあるきを紹介します。
標高だけではうかがい知れない奥深い房総の山へご案内します。

重 版
好評発売中